

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	素風 破れ蓮 光雲2 ありぎり す 癒香	瞳人		瞳人	かれん	曆文 土璃 ありぎりす 風子 梗舟	展平 土璃 一葉		凡士 たくみ		米山 ひろ志 ありぎり す 佳月 波見頓	米山		
つつましくなよと単衣の砂かぶり	落日のくれなるを呑む秋の海 中七が効いている。「くれなるを呑む」が上手く景を切り取っている。壮大な一幅の絵ですね。くれなるを呑むの表現が良い。	命名を聞いても読めぬ良夜かな 初孫、いやあ、うれしと思えど、こりや読めん、さはされど、うれし いな。	木の根っこ虫のライブの指定席	独り居のけふの馳走は秋刀魚なり 一匹、丸ごとは、食べきれないけれど、ゆくり、苦みも味わって。	灯の消えし回転木馬夜の霧 静まり返った回転木馬が霧の中に浮かんでいるようだ。	おしろいの咲く裏口に野良着脱ぐ 映像が見えてきます。意味ありげだが、よくわからない。が、気になる一句。オシロイバナと野良着の取り合わせに俳味を感じました。白粉花と野良着の取り合わせに農村女性の複雑な心理を感じる。季語と情景がマッチしている。	秋晴れや茄子を磨けば妻映る 秋晴れと茄子、生き生きした表現。あらためて妻を見たかったんですね。そこはかない愛情が感じられます。夫婦の共同作業でしょう。努力が実って立派な茄子ができたようです。	竹垣に絡まり葛の垣となり	燕帰るついに空き家となり 昭和のニュータウン今やゴーストタウン寸前に。また来る日が楽しみです。	先立ちぬ好いやつお前雲の峰	敬老日しづかに帯を締め直し 帯を締め素敵です。年に一度の晴れの日、きりつと帯を締めての参加である。古風ですが情緒があります。気迫を感じます。	歳月の過ぐるは早し虫の声 リズムが良い。	盆波や思い出での夏置き去りに	朝の月真白く観えた雨上がり
森下山菜	安田蝸牛様	河野凡士	光雲2	新井のり子	立野音思	しーしー	ありぎりす	衛	森 佳月	瞳人	岩本展平	檜鼻ことは	米山カロー リング	宇田靖之

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	光雲2		大越 一葉 みづる 田猫 順一	素風 光雲2	幹子	のり子 たくみ					破れ蓮		彩香 曆文 ひろ志 田猫	曆文 楽
笑みあふて葡萄狩りでの一会かな	行合の空へ伸びゆく牽牛花	どよめきてイギリス空母秋高し	ブラウスのふくらみ抜ける秋の風 <small>ふくらみはブラウスならでは共感です。普通選番号(2)選評：袖口から通る風が身体を抜けてゆく爽快感が季節の移ろいをかんじさせる。爽やかな写生の句。風の肌触りも伝わる。融通無碍な秋の風。更なるふくらみをもたらしたのかもしれない。</small>	夕照の湖へと渡る雁の棹	青田波亡き妹偲ぶ故郷よ <small>妹さんを偲ばれて居られる気持ち伝わります。</small>	善き人と善きこと語らん菊の酒 <small>善き人でありたいと思わせる一句。雁行を上手く表現している。せめて酒の席くらいは穏やかに過ごしたい。</small>	秋暑し土佐のガイドの名調子	道化師の玉乗りひとり月夜かな	秋澄むや横切る蝶を見つけし子	陽の当る秋の草原売地札	読み止しの書誌に親しむ秋灯下 <small>読書の秋を表現している。</small>	点々と火の入る村や秋遍路	子には子の言い分のあり柘榴裂け <small>裂けた艶やかな赤い滴る実の粒に 幼き子らの言い分がクローブアツプ。父と息子、我が事の様で身に染みます。口を開いたが、ためらう子の姿が、下五と響き合う。</small>	畦道は俺の花道曼珠沙華 <small>なるほど。農業を生業とする方の達成感が感じられました。</small>
大越マーガレット	岩清水彩香	波見頼	和田イチ子	破れ蓮	いさむ	霜里	石井直子	一駄歩	みづる	ひろ志	松田素風	新曆文	荒一葉	神谷たくみ

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年九月
	順一			楽 展平			直子	ことは くるみ たくみ 直子			彩香 大越 展平 佳月	みづる	総太郎		
目隠してモデルなるなり西瓜割り	破芭蕉小動物の休憩所 子犬や子猫が来ているのでしょうか。	閑かさや雨音響く長き夜	涼風の頬撫でていく日暮れ道	ピーマンに似たる吾が腹吾が頭 ピーマンを季語にした面白い句だと思いました。自虐ネタの面白さ。	白露や想ひ寄すとも消えゆきて	階（きざはし）の落葉に靴をすべらせて	TVシヨップ声裏返る残暑かな 熱のこもる商品説明に暑さが増幅されるようです。	秋晴を食い尽くすやう鯉の口 餌だけでなく空や季節そのものまで呑み込んでしまおうですね。水面に撒かれる餌を競う鯉の口の勢いの表現がお見事！！食いつくすが効いています。季語の配置もいいですね。食欲旺盛な鯉、空までとは迫力があります！	水平線の向かふに航る新酒かな	大潮や子と追ひかける鯨の跳ね	三日月や噛めばほろほろ金平糖 リズム良く、オノマトペが優しく、月の満ち欠けを金平糖の食感にぶつけたのが素敵。三日月と金平糖のどんがり、噛めばその甘さに心のどんがり、三日月と金平糖、取り合わせの妙。	水晒し沈んで浮いて新豆腐 瑞々しくて豆の香りも一際、の新豆腐に秋を迎える喜びが感じられる。	鳥居ぬけ一歩ためらふ敷紅葉	七年ぶりの漁に沸く秋刀魚かな	かれん
米山カラー リング	石川順一	雪待月田猫	佐藤幹子	染谷風子	癒香	岡本たか子	岡崎梗舟	石関六弦	平野楽	総太郎	くるみ	龍野ひろし	小林土璃		

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
ことは 大越 風子	くるみ 癒香 梗舟		素風 破れ蓮 幹子	かれん ひろし				彩香 かれん 田猫			しーしー			米山
「生きてるか」「あるよ」と秋の簾越し	艶やかに闇のふくらむ虫の声	糸瓜忌や元気短命あんぱんまん	勤行の声して朝の寺さやか	摩天楼眼下は深き霧の中	ほほづきの仄かな灯点る宵	タータンのズボン作るひ秋に入り	穂芒の出窓を磨く如く触れ	溪流で沸かすコーヒー秋立てり	朝庭の風を背に受け箕をあおる	振り返り足音ばかり曼珠沙華	棘のあることばを悔いて秋の暮	ほろほろと蟋蟀のこゑ亡友のこゑ	秋の空気持ち良さげに往くとんび	ご無沙汰の友より便り糸蜻蛉
荒一葉	河野凡士	森下山菜	安田蝸牛様	立野音思	光雲2	新井のり子	衛	ありぎりす	しーしー	岩本展平	森佳月	瞳人	宇田靖之	檜鼻ことは

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年九月
		瞳人 総太郎 梗舟	しーしー みづる 順一	ことは	風子 直子 波見頓	楽 蝸牛	のり子	佳月			蝸牛 ひろ志		凡士 ひろし	総太郎	
爽籟の「おはよう」いくつ朝散歩	宵闇やスカイツリーに灯がともる	夫の手を握り試歩なり萩の径 いやあ、一歩ずつ、これからです。いままでも、そうだったように。おまえ百まで、わしや、再び歩くための試歩だと思えます。夫、萩でなんとなく明るいです。季語の選択が良い。	おしろいの路地に聞こゆるまあだだよ かくれんぼの声と、おしろいが開くのも「まあだだよ」。子どもの頃の懐かしい記憶が甦る。黒澤監督の映画を思い出しました。	秋彼岸万年筆の「る」は歪む 「る」は歪む・・・何とも奥行きのある措辞ですね。	入る墓持たぬ身ゆるり秋彼岸 上五中七が読み手の想像力をかきたて句に深さを感じる。堂々とゆったりと生きている詠み手に励まされました。	一の字に成りつ撓みつ雁渡る 上五中七の表現がよいと思いました。渡る雁を巧みに表現している。	風鈴の音透き通る夕景色	朝露や二度寝の夢に君は来ず 最初の夢には来たのでしょうか？続きを見たかったですね。	堅き桃皮ごとかじる夜汽車かな	撮り鉄の構える指先残暑かな その一歩がいい。	浦風にまぎる帰燕の迅さかな 「浦風にまぎる」という措辞が良い。	板前の性か秋刀魚に紅生姜	星月夜ギリシヤの神ら語り合ふ パルテノン神殿が星月夜の中を浮き上がっている。	お点前や鈴虫を聴く緋毛氈	
小林土璃	かれん	和田イチ子	岩清水彩香	波見頓	霜里	破れ蓮	いさむ	みづる	石井直子	一駄歩	松田素風	ひろ志	神谷たくみ	新曆文	

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年九月
	凡士 幹子 ひろし 波見頓	しーしー					蝸牛			くるみ	一葉	のり子	土璃	癒香	
「国宝」の話題ふくらみ房葡萄	八十年戻らぬ島よ雁の列 雁は自由に日本と北方四島を往き来するの！島民の方々のお気持ち を思うと、とてもせつないです。早く戻って欲しいですね。	秋の草挑発的に壁に生え 壁が土かべなのでしよう、中七が挑戦的。	銀河へと名月雲を分かちけり	運動会パパからもらう金メダル	ふんはりとみんなを包む紅芙蓉	一本の垣根の萩や匂ひをり	蜻蛉追ふ子らの背中に夕日影 唱歌のような世界。	水遣りの手間の省くる夕立来	野分たつ髪の乱れやリーゼント	ボサノヴァの意味もわからず星月夜 つぶやきと季語の取り合わせの妙味が魅力的・	秋風や左頬から吹き抜けて 秋風の気配を左頬に捉えた点がユニークで手柄。	敬老の日鍵の音こそ息子なり 親心を鍵の音で巧みに表現。	賢治の忌 部屋のどこかに鉦叩 鉦叩きの声、聞き入ると不思議な世界に入り込む。それが良く表現さ れています。	早暁の露に宿りし瑠璃しとど 瑠璃しとどの表現が良い。	
青木鶴城	染谷風子	石川順一	雪待月田猫	岡崎梗舟	佐藤幹子	岡本たか子	癒香	平野楽	青木鶴城	石関六弦	龍野ひろし	総太郎	くるみ	大越マーガ レット	